

The page features a decorative design with three blue circles of varying sizes, each composed of concentric circles in different shades of blue. These circles are arranged vertically on the right side of the page. Two thin blue lines originate from the top left and extend diagonally across the page, one passing through the top circle and the other through the middle circle. A large blue circle is partially visible at the bottom right corner.

クラシカルホメオパシー —基本講座 6

「特に女性に関係したレメディ 6つ」

女性の生理の問題と心身全体との関係はとても密接です。女性の生理の問題によく使うレメディについて学びます。

CHK クラシカルホメオパシー京都

連づけてみるとレメディのイメージはハッキリしてきます。

例えば・「暑がり・寒がりレメディは？」「水をよく飲むレメディは？」「自信のないレメディは？」「胃腸が悪くなりやすいレメディは？」「ケガのレメディは？」など

それでは今回「女性に特に関係したレメディ 6つ」 ※1つは重複。

まずまとめから

● 生理関係レメディ 2つ

1. Sep. セピア=「停滞」レメディ
2. Lach. ラカシ=「出口を探す」レメディ
3. Mag-p. マグ・フォス=ホメオパシーのアスピリン

● 女性に多い保守的レメディ 3つ（男性にも多くいます）

4. Sil. シカ=「一見ソフト中身カチカチ」レメディ
5. Merc. マーキュリー=「不安定」レメディ
6. Kali-bi. ケライ・ビック=「地味な保守的」レメディ

以上6つ

6-2：女性生理の問題によく利用するレメディ候補3つ

生理面でのトラブルはまず Puls. Nat-m. Sep. Lach. の4つが候補レメディになります。

Puls.と Nat-m.は既に学びました。復習しておいてください。

1. Sep. セピア=「停滞」レメディ

- ・ 中心テーマ=「スタシス：STASIS=あらゆるレベルの停滞」
- ・ 女性ホルモンは元々、ゆったりとして微妙なもの。わずかなことで止まりやすい。
- ・ 原料は「イカスミ」=イカの生態イメージと類似。

- ・ 好き嫌いがハッキリしている。特に家の中の人は嫌いで、外の人が好き。
- ・ 出産後、症状が出る。
- ・ 性的に無関心。家族にも無関心。
- ・ ゆっくり動くと駄目。激しく動くと好転。(停滞から抜け出したい欲求)
- ・ 激しい運動で好転。音楽で好転。つまりダンスが好き。
- ・ 下半身が充血気味。浮腫む。下腹部の重い感じ。便秘。
- ・ 足を組むことが多い。これで安心するから。

- ・侮辱されると爆発する。ケンカする。
- ・あら探しする。気むずかしい。思うとおりにしたい。
- ・頑固
- ・満月で悪化。
- ・左側に問題が多い。
- ・慰められるのは嫌。
- ・いわゆる更年期障害的な症状に効果。

● その他特徴

- ・ >仕事；激しく尽力する。 ※>印は好転。 <印は悪化を現す。
- ・ 酸っぱいものやチョコレートを渴望する。
- ・ 押し下げる様な感じ。
- ・ <前、中、後、生理の。

2. Lach. ラクス＝「出口を探す」レヂェイ

中心＝「出口を探す過剰な刺激」「激しい」「熱い」

- ・ 原料は熱帯アメリカの毒蛇。毒性は激しい。血液・組織を破壊。
- ・ ヘビの生態イメージに近いものがある。
- ・ 頭と口の回転が速い。おしゃべりで話題がコロコロ変わる人。
- ・ 症状がコロコロ変わりやすい。自律神経失調症的。
- ・ 首周りの圧迫を嫌う。スカーフ・ベルトは耐えられない。
- ・ 閉じこめられることには我慢できない。
- ・ 暑さに弱い。
- ・ 左側に多くの症状。または左から右へ。
- ・ 性欲が強い。逆にまったく興味がなく、厳格に古風な態度のときもある。
- ・ 火傷にも効果。
- ・ 思うとおりにしたい。
- ・ いわゆる更年期障害的な症状。のぼせなど。
- ・ 人生を難しくする（回り道して生きる）

● その他特徴

- ・ >分泌、特に生理。 ※>印は好転を現す。
- ・ 温血。紫色。
- ・ 嫉妬深い。疑い深い。

3. Mag-p. マグ・フォス (既に学びました)

「ホメオパシーのアスピリン」と呼ばれる。

- ・ひどい痛みには効果的。グッと押さえないと駄目なような痛み。急な痛み。
- ・人より痛みをより感じやすいタイプの人。
- ・痛みの種類は頭痛・生理痛・胆のう痛など（差し込むような痛み）
- ・生理痛では出血は真っ黒。お腹に触ると痛みがある。太股にまで痛みが広がる。
- ・精神＝キレルタイプの人。下らないことで暴力を起こす。寂しがり。一度傷つくと復讐を考える。

6-3 : 保守的なタイプにマッチするレメディ候補3つ

4. Sil. シカ＝「一見ソフト中身カチカチ」レメディ

セルフケア的にはトゲなど「異物を体内から出すレメディ」

- ・原料は二酸化珪素（水晶など）→ 普通使われているもの＝ガラス・シリコン
- ・固い・曲がらない・乾いている・粉々になるもろい物質。

中心＝「自信がない。表面的には従順だが、内的に固い」「頑固」「依存的」

- ・粘膜は乾いている。皮膚も。
- ・精神的には、感情表現がとぼしい。
- ・自発性がない。流れに任せる。決断力・勇気がない。弱い。
- ・寒がり。とても喉が渇く
- ・炎症を起こししやすい。長引く。治りにくい。痕が残りやすい。
- ・精神エネルギーが低い。
- ・すぐ疲れる。諦める。
- ・家を出たくない。出てもすぐに帰りたい。
- ・生理はしばしば止まる。
- ・ケンカは割れるように爆発するようになってしまう。
- ・冬に悪化。乾燥しやすいから。
- ・歯や骨の問題が起きやすい。

● その他の特徴

- ・認めてもらう事を必要とする；職業（特定のイメージ）に専念する。家では偏狭。
- ・簡単に発汗する；過去に足の汗を抑制していた。
- ・再発性の感染症；化膿しやすい。

5. Merc. マーキュリー＝「不安定」レメディ

- ・原料＝水銀→金属だが常温では液体。
- ・温度計に使われている。つまり外の影響に敏感。
- ・水銀中毒＝口内・食道・胃にかけて腫れ、歯ぐきはスポンジ化。よだれ・悪臭・化膿
- ・セルフケア的には「口内炎や歯茎の炎症のレメディ」

- ・中心＝「不安定」「過敏」「影響を受けすぎる」
自分が不安定故に周辺に安定を求める。自分の分をわきまえなさいなどと言う。
しかし、周辺が変わらないときには我慢ならず、破壊的・攻撃的になる。

- ・病的に几帳面なところがある。
- ・急性的炎症・化膿に効果。
- ・一人でいたい。せっかち。暴力的。
- ・体臭が強い。特に足の汗。

(参考) ハーネマン：「Sulph. ＝男性性」・「Merc. ＝女性性」と表現した。

● その他の特徴

- ・＜夜。
- ・腺の病気。
- ・＜右側を下にして横になる。

6. Kali-bi. ケライ・ビック＝「地味な保守的」レメディ

- ・原料＝重クロム酸カリウム
- ・セルフケア的には蓄膿症、鼻の炎症。副鼻腔炎。
- ・多くの Kali 化合物のレメディがある。これらのレメディは Kali の性質に影響される。
「Kali」的性質とは？・・・
- ・保守的、現実的（地に足がついている）
- ・自分の知っている範囲で生活したい。
- ・白黒ハッキリさせたがる。（良いと悪い、好きと嫌い）
- ・キチンとした生活を望む。出来ないと不調。
- ・ルールを守る。トラブルを避ける。
- ・狭い範囲で同じパターンの生活に満足する。
- ・細かい事にこだわる。しばしば度を越した官僚主義者になる。

「bic」的とは・・・クロムメッキ的。ピカピカに磨きたがる。

化合物としての全体・・・

- ・痛みは急に出て、急に去る。
- ・とても狭い範囲の痛みや炎症。くしで刺すような感じ。狭い丸状態の痛みなど。
- ・粘った濃い鼻水。
- ・ビール好き。肉嫌い。(慢性胃炎状態に似ている)
- ・冷たい水はチビチビとしか飲めない。
- ・家を必要以上にピカピカに磨く人。

6-4：まとめ／実際にレメディをどう見分けるのか？

<レメディを見分けるポイント>

1. 「その人をどう捉えるか？」について

○出来るだけ「心身全体」を観ること。

ホメオパシーは対症療法ではなく、全体を観て、健康状態を高めて行くものです。

「症状の全体」を観る癖をつけましょう。

○SRPに注目すること

ホメオパシーは、個々の人の個別化をすることが目的です。(通常医療は一般化)

その人らしい際立った点(症状)に注目するようにして下さい。

2. レメディ投与の後のこと(慢性病の場合／セルフケア範囲外だが)

○急性と慢性で対処法が違います。まずは、それを見極めて下さい。

急性の場合・・・

急性症状は、何か明確なきっかけから始まり、症状が強くはっきり出ます。そして、短期間で終わって行きます。レメディを投与したら、数時間以内に結果が出ます。

慢性の場合・・・

慢性症状は、いつの間にか始まり、徐々に悪化して行き、良くなる事はありません。

レメディを投与してもなかなか変化が出てこないことも多いのです。我慢して待つことが大切。最低2〜3週間は様子を見る。変化が出るのに1〜2ヶ月かかることもある。

ホメオパシーのセッションを受けた場合(通常は慢性症状ですから)

「Wait&Watch」が特に大切。また、セッション後は、何か不調が起きた時まずはホメオパスに連絡すること。自己判断でレメディを飲まないように注意して下さい。

3. レメディがマッチしているかどうかの判断

見極めるコツは「ヘリングの法則」に沿っているかどうか？が判断基準。

風邪のような症状（発熱・下痢・嘔吐・むかつき・発疹・分泌物排出）や昔経験したことがある症状が再来して来た時は、レメディがうまく働いて、自然治癒が始まっていると考えて下さい。この時出て来た症状にレメディを使ってはいけません。ただ経過を見守って下さい。見極めるコツは、「機嫌・顔つき・寝る」です。

もう一つ、「良くなる時」は本人は気づきにくいものだと知っておくこと。

4. 珈琲・強い香りの問題など

過剰に考え過ぎることはないが、レメディ投与後は出来るだけ飲まないようにする。

「依存症」になっていないか注意。珈琲に限らず、いかなることもそれがなくてはならない身体の状態というのは本来の健康状態からずれてきていると考えられるから要注意。

大変お疲れ様でした。これでクラシカルホメオパシーの基本は終了です。

ホメオパシーは学べば学ぶほど面白く、同時に難しさを感じられることでしょう。

ではまた、いつかお会いしましょう！

（クラシカルホメオパシー基本講座 6 終了）